

平成 15 年 7 月 24 日 ブリーフィング説明内容

以下は、平成 15 年 7 月 24 日におこなったブリーフィングにおける弊社会長 細谷 英二による説明内容です。

りそなホールディングスの会長の細谷でございます。いくつかお話をさせていただきたいと思っております。まず、皆さん方がりそな再生に対して、たいへんな関心を寄せていただいております。報道していただいているわけでありますが、私自身が、個別の取材になかなか応じることができない状況でありますので、年内は毎月下旬にこのような形でブリーフィングをさせていただきたいと思っております。そして、その間の 1 ヶ月の動きについて、皆さん方のご質問に率直にお答えしていきたいと思っております。

【「頭取」呼称の廃止について】

今月は二つ発表がございまして、一つは、この 10 月 1 日に傘下銀行の頭取という名称を廃止したいと思っております。これは私が就任以前から、銀行業から普通のサービス業に変身すべきだというメッセージを発してまいりましたが、従業員の皆さんの意識改革のためには、普通の会社になるということが大事ではないかなと、従いまして、これまでの行員という呼び方につきましても、社員という呼び方に変えさせていただきたいと思っております。それから、現在、ホールディングスの社長と銀行の頭取と私が相部屋に入っておりますが、これまでは肩書きで呼び合っておりましたが、社長が同じ部屋に二人いるということになりますので、10 月 1 日からはお互い「さん付け」で呼び合おうと、そして、銀行内もホールディングス内も、これからは肩書きで呼び合う関係ではなくて、「さん付け」で呼び合うというような社風にしていきたいなということを考えております。

【りそな総合研究所のシンクタンク業務からの撤退について】

それから二番目に、お手元に資料がありますように、りそな総合研究所のシンクタンク業務からの撤退についてということで、現在、関係会社あるいは緊密先等の見直しをおこなっているわけでありまして、りそな総合研究所は全くグループ内の完結型の研究所でありますので、ここから多額の費用が発生しないようにということで、いわゆる親会社グループから業務委託しておりますマクロ経済的な分析、調査部門につきましては、この機能を廃止いたしまして、本来のコンサルティング業務とか、あるいは会員事業とか、収益性で成り立つ事業に特化させたいと考えております。それによりまして、りそなグループのコスト見直しの一環としても、あるいは、りそな総合研究所の特化した業務のなかで競争力を向上させていきたいということを考えております。当然、これまでのりそな総合研究所という名称をつけるかどうか、名称の変更を含めて、研究所の方で検討してもらいたいと指示を出しているところでございます。

【関係会社等の見直しについて】

それから、いくつかの新聞に報道されておりますように、関係会社、緊密先につきましては、ゼロベースで見直しの作業を進めております。それぞれこれまでの複雑な経緯もありますし、整理をするためにはさまざまな選択肢がありますので、これらにつきましてはもう少し時間をかけながら、あるいは、社外のアドバイスをいただきながら、そして、デューデリジェンスの結果を見ながら、秋までには具体的な方向性を決めていきたいと考えています。そのうえで、銀行と業務上重複しており、早くからある程度整理の方向性を決めた方がいいノンバンク分野の2社につきましては、基本的には撤退の方向で具体的な検討に入るように指示をしたところであります。

【産業再生機構の活用について】

それから、最近の動きでは、今日のダイヤ建設について産業再生機構との係わり合いが報道されておりますが、私どものお取引先の事業再生、それが産業再生につながるための産業再生機構とのパッケージ的な選択肢は極めて重要なものだと考えております。そういう意味では、これからいくつかのお取引先につきまして協議をさせていただくことになるかと思いますが、個別企業につきましては、その企業の信用問題もありますので、私どもから具体的にこの企業について産業再生機構と協議を進めているというコメントだけは差し控えさせていただきます。

【コスト競争力向上への取組みについて】

それから、りそな再生のためには、就任前からコスト競争力の向上ということを強く言ってまいりました。りそなの内部に入ってみまして、コスト面の徹底的な見直しをやらなければならないなということで、組織内で横断的な委員会等を設置いたしまして、多面的にコスト構造の見直しをおこなっていきたいと思っております。社外取締役にご承知のとおり、花王の渡邊さん、それからトヨタの井上さんという、国際競争のなかで勝ち残っている日本のすばらしいメーカー出身の経営者がおられるわけでありますので、ものづくりのきめ細かなコストダウンの手法をぜひ導入していきたいと考えております。花王さん、トヨタさんに私どもの事業実態を見ていただいて、いろいろな意味で助言をいただいて、それをコスト構造の見直しに活かしていきたいということを現在考えております。以上が私から最近の動きにつきましてご報告申し上げまして、あとは個別のご質問にお答えするというにさせていただきたいと思っております。

以上